

知事定例記者会見

日 時 令和8年2月20日(金) 14:00～14:08

場 所 別館2階 記者会見室

(知事)

よろしくお願いします。私の方から今日報告する事項は1点でございます。

津波対策推進旬間及びですね、津波避難訓練の実施についてでございます。

今年の3月11日で、東日本大震災の発生からちょうど15年となります。この地震による津波は極めて大規模であり、東北地方と関東地方の沿岸部に大きな被害をもたらしました。本県におきましても、南海トラフ地震の発生における津波による甚大な被害が予想されており、こうしたことから3月11日を含む10日間を津波対策推進旬間と定め、県と県内沿岸21市町で、防災関係機関と住民が一体となり、訓練や啓発活動を展開しております。

この旬間のスローガンは、地震発生時には躊躇せず避難をすることが命を守る行動として何よりも大切なことから、「地震だ、津波だ、すぐ避難。～少しでも早く、少しでも高く～」というふうにしております。

今年度の旬間は、令和8年3月6日金曜日から3月15日日曜日までとなります。この旬間中の3月8日日曜日を津波避難訓練の統一実施日といたしまして、この日を中心に県内の沿岸市町において津波避難訓練が行われます。

県民の皆様には緊急避難場所や緊急避難経路の確認、非常持ち出し品の常備など、日頃からの備えをしていただくとともに、地域で行われる津波避難訓練には積極的に参加をしていただくようお願いを申し上げます。

私から以上でございます。

(幹事社)

はい。ただいまの知事の発表について質問のある社はお願いします。

では幹事社質問に移らせていただきます。

2点ありましてまず1点目なんですけども、リニア中央新幹線のことを伺います。県はリニア中央新幹線南アルプストネル静岡工区のヤード用地の拡張造成に必要な自然環境保全協定をJR東海さんと締結しまして、16日から準備工事が始まりました。これを受けての知事の所感をお聞かせください。

(知事)

はい。工事に当たりましてですね、この協定が締結をされたことによりまして、自然環境保全措置がですね、文書によって、しっかりと担保されたということでござ

いますので、意義のあることであるというふうに思っております。県といたしましては、この準備工事の実施に当たりまして、しっかりですね、JR 東海さんにはですね、協定に基づく保全措置がですね、適切に、履行されるようにですね、お願いを申し上げていきたいと思っております。

(幹事社)

ただいまの幹事社質問に関する知事の回答について、質問のある社はお願いしません。

(記者)

ありがとうございます。静岡朝日テレビです。よろしくお願いします。

(知事)

よろしくお願いします。

(記者)

年明け以降、水資源の補償に関する確認書の締結と、先ほどのヤード拡大に際して協定を締結するなどですね、静岡工区着工に向けて歩を進めているように受け取られますが、こうした動きについて、国のモニタリング会議の矢野座長も「節目と言えるような大きな動き」というふうに言っています。度々伺うようで恐縮ですが、前知事時代にはよく登山に例えて進捗を伺っていました。知事は今、何合目あたりにいると思われませんか。

(知事)

何合目かはよく分かりませんが、一応まだ生物多様性とですね、トンネル発生土の検討項目が残されておりますので、それをしっかり進めていくということでございまして、ただ大きな課題は、山を越えたかなという感じはいたします。はい。

(記者)

去年の6月にもですね、大きな山を越えたというふうにおっしゃっていましたが、そこからまた、なんて言うんですか、進んだようなふうにお感じでしょうか。

(知事)

そうですね。当時、水資源の専門部会ですね、対話が終了したということで、一つ節目を迎えたわけですが、その後、課題となっていました、補償の問題ですね、将来にわたってのですね、補償が、国の立ち会いの下で締結できたということと、

今回の環境保全協定を結ぶことができたということですので、もう一山越えたという感じだと思います。はい。

(記者)

あと、県の専門部会で、先ほどおっしゃったように議論されます、県とJR東海の対話も残すところ11項目となりましたけれども、この後、また山があるのかどうかというところも含めて、知事は年内の着工の可能性は高いというふうに見ていらっしゃいますでしょうか。

(知事)

まだまだいつかは申し上げられませんが、水ほど大きな課題は残っていないというふうに思いますので、引き続きスピード感を持ってですね、丁寧にJRと対話を進めていきたいとします。

(幹事社)

その他、どうでしょうか。じゃあ2点目の質問に移らせていただきます。遠州灘海浜公園篠原地区の新野球場整備の関係でお伺いします。県と浜松市の遠州灘海浜公園篠原地区への新野球場整備に向けた協議会で、行政負担の上限額と民間投資の可能性を見極める検討期間を設ける方針が確認されました。行政負担額のあり方を、知事どう考えてですね、検討期間はどの程度を見込んでいらっしゃるかどうかをお聞かせください。

(知事)

はい。一応これ、基本方針として、確認を合ったということで、やはり行政がどれくらいですね、負担をしていくかということを確認していかないと、民間の方も具体的なですね、投資の検討ができないと思いますので、これはしっかり浜松市さんと、負担のですね、おおむねの額等ですね、見定めいきたいとしますし、それと合わせてですね、検討期限の目安も決めていきたいと思いますが、これは今現在、浜松市さんとですね、調整をしているところですので、またはっきりしたらですね、お知らせをしたいとします。

(幹事社)

わかりました。ありがとうございます。ただいまの幹事社質問に関する知事の回答について質問のある社をお願いします。じゃあ、その他のご質問のある社をお願いします。毎日さん。

(記者)

毎日新聞と申します。高市内閣がですね、第2次高市内閣が発足をしました。年度内にも、当初予算、来年度の当初予算案を通したい、走りに通過させたいというような意向を示していますけれども、大変審議期間が短くなるのではないかという懸念も、一方あります。地方の自治体の首長として、年度内の成立というのに対して、内閣のそういう方針に対して、どういう考えをお持ちなのか、早期成立が望ましいのか、あと、予算委員会の審議で、どういうところを期待しているのかっていうのを、教えていただきたい。

(知事)

はい。予算審議についてはですね、予算の中身について、ぜひ、スピード感を持って審議をしていただきたいというふうに思います。予算審議の、予算委員会でどれくらいですね、時間を設定するかっていうのは、これはもう、私も国会にいたことありますけれども、国対間(正しくは、「国会対策委員会間」)で、話し合いをしてですね、一定の枠を決めるということでございますので、おそらく野党としてはですね、十分な審議時間を、というふうな申し入れになると思いますが、そこはあの、国体(正しくは、「国会対策委員会」)同士で、これから議論をしていただきたいと思いますし、ぜひ予算委員会の中身についてですね、できるだけ、予算の全体にかかわることを中心にですね、前向きな、というかですね、そういう議論がなされることを期待をしているところでございます。できればやっぱり、年度内成立というのがですね、私は望ましいと思いますので、スピード感を持って、対応していただきたいなというふうに思います。

(幹事社)

その他の質問のある社はありましたでしょうか。

じゃあ、以上で記者会見を終わります。ありがとうございました。

(知事)

はい、どうもありがとうございました。